



旧市街の街並と路地

クルニュー、S・ロカ、リュブリャナには凝縮した旧市街のきれいな街並があり、またピランには魅力的な路地が…



リゾート

スイスと背合わせの明るいサニーアルプスにはブレッド、ポーヒンの二つの美しい湖があって、家族連れが水遊び…



連日の移動

連日、バスと鉄道で移動しながらの旅はハラハラのしどろしどろ。だからこそ地元の人に助けられながらの旅らしい旅…



国境とユーゴスラビア

ノヴァ・ゴリツァの駅前にはイタリアとの国境を分けるフェンスが…。ユーゴスラビアの歴史を垣間見ました



SLOVENIA

2018.8.1-8
スロベニア

凝縮してるから目立たない魅力ある国



この夏は初めてのスロベニアに行ってみました。クロアチアを検討していたのですが、ガイドブックで必ず一緒に載るスロベニアの方に惹かれてしまいました。理由は静かそうで、涼しそう、バスや鉄道で細かく移動できそうだから。スロベニアは「一生かけても行かない確率98%」という、日本人にとって興味の薄い国。だからこそ静かそうで、結果もそのとおり。首都のリュブリャナ、空港近くのクラニヤシュコーフィア・ロカで旧市街の街並を楽しみ、ブレッド湖とポーヒン湖でリゾート気分になり、ノヴァ・ゴリツァで国境を意識し、ピラン、コペルでアドリア海の明るい街に心を躍らせました。毎日バスと鉄道で移動しながらハラハラ・ヒヤヒヤの連続。そして日本人にとって複雑過ぎる旧ユーゴスラビアの歴史を勉強する切っ掛けになりました。

欧州の面白さは「凝縮」して楽しむことにあります。旧市街に行けば映画のセットのように異次元空間が凝縮し、家並みに現代が混じらない度合いを「純度」とすれば、往時のまま膨らまずに同じ姿を留める度合いが高いほど、観る楽しさは増大します。リュブリャナは欧州最小の首都と呼ばれますが、旧市街の凝縮度は見事なものでした。町裏にお城があって、登れば街全体が俯瞰できます。その山裾をくねる川に沿ってレストランが軒を連ね、一本裏は商店街。隣のクロアチアにはドゥブロヴニクがありますが、スロベニアにはピランがあります。ピランの方が全てにおいて小粒ですが、凝縮した面白さでは負けません。スロベニアは目立たない国ですが、凝縮した魅力を秘めているのです。



ヘルスデータ 2日：23130歩/13.7km 3日：24719歩/13.2km 4日：11571歩/6.0km
5日：12166歩/7.0km 6日：20594歩/11.3km 7日：27488歩/15.1km

スロベニアと旧ユーゴスラビアの歴史

スロベニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア、モンテネグロ、マケドニアとコソボ・・・これらが旧ユーゴスラビアを構成していて、独立分離した国々です。私は西ヨーロッパのほぼ全ての国を巡りましたが、このユーゴスラビアが西側なのか東側なのかピンときていませんでした。その内に突然7つの国に割れたのです。その複雑さは「七つの国境、六つの共和国、五つの民族、四つの言語、三つの宗教、二つの文字、一つの国家」と表現されます。

元は東ヨーロッパに広がったスラブ人の土地という一括りの中で、ロシアなどの東スラブ、チャコ・ポーランドなどの西スラブ、そしてスロベニアを含めた南スラブに分けられ、ユーゴスラビアとは「南スラブ人の地域」という意味をもちます



スロベニアは支配されてきた歴史。6世紀にスラブ人の流入が始まり、フランク王国、ハンガリー帝国、神聖ローマ帝国、ヴェネチア共和国、ハプスブルグ家と次々に新興勢力に支配されてきました。スラブ人は支配される中で農奴となり、英語のslave (奴隷) がスラブを語源とするという説もあります。ようやく16世紀になってスロヴェニア語が復活し、支配か

らの脱却や民族の団結意識が芽生えます。

第一次大戦でセルビアがオーストリア・ハンガリー帝国に勝利すると、セルビア主導でセルビア人・クロアチア人・スロベニア人王国設立を目指す動きが起こり、スロベニアはこれに参加して、1918年に王国が成立。1929年にユーゴスラビア王国と改称しました。しかしセルビア主導だったので、特にクロアチアの不満は大きく、後に大きな禍根を残します。

第2次大戦でユーゴスラビアは日独伊の三国同盟に参加するしかないと判断しますが、反対派がクーデターを起こし、これを不満に思ったナチスが占領されてしまいます。ユーゴスラビア王国政府はイギリスに亡命政権を樹立しますが、ドイツに抵抗する力はなく、これに対して激しく抵抗したのがユーゴスラビア共産党のチトー率いるパルチザンでした。

イタリアが降伏するとチトーは軍を掌握、スロヴェニアも国土を奪還します。1943年チトーは社会主義を標榜するユーゴスラビア連邦人民共和国を結成しますが、ソ連の支配から外れ、ギリシャやトルコとの間でバルカン三国同盟を結んで事実上のNATO同盟国となります。つまり西側の防衛体制に加わったのです。

先に書いたように「むずかし過ぎる」同盟体制の中で、一つにまとめられたのはチトーのカリスマとバランス感覚だったといわれます。しかし、チトー没後は東欧の共産主義政権が弱体化したこともあって、連邦の足並みが崩れます。

西側に近い位置にいて経済を活発化させていたスロベニアと、セルビアと対立するクロアチアは共に連邦から離脱、独立します(1991)。両国はユーゴスラビア連邦軍との戦闘態勢に入り、スロベニアは10日間で終わらせませんが、クロアチア紛争は長期化して泥沼状態になりました。その後、独立が相次ぎ、いつの間にか七つの聞き慣れない名の国が出現しました。

一方で、スロベニアは社会主義でも西側に近かったことで経済を発展させ、1人当たりGNPは中東欧諸国中トップ。2004年にはEUに加盟。また同年NATOに加盟し。2007年にはユーロ圏に参加するなど、旧ユーゴスラビア諸国の中では最も安定し、豊かで、治安のよい国となりました。ということで、スロベニアの目立たない理由が、なんとなく明るいものにみえてきて嬉しくなりました。



ピランには伝統的な自然製法による良質な塩があり、その塩で美味しい生ハムがつくられる。9.5€



ポーヒン湖名物の黄金の鱒のグリル。ドイツ軍が兵糧用に湖に放ったとか。デッカくて腹一杯。塩味が極上13€



アドリア海の街ピランはイタリアンが美味しい。手長エビに挑戦したが食べるに一苦労。ソースは抜群。18€



コベルの海辺でタコのリング揚げ。柔らかくて美味しいが、日本のカブリチョーザの方がケチャップで勝る9€



地元の人がよく飲んでるスープが気になって、リュブリャナで注文。チキンでしたが、素朴な塩味が絶品10€



とはいえやっぱりステーキ。クラニユのホテルのステーキは美味かった。前菜のパテ、ビール込み24€に涙。

クラニユ

リュブリャナ空港から車で10~15分。ACTUMホテルは立地もよく、シングル朝食付きで90€。部屋はとても綺麗でバスタブ付き。レストランのステーキは絶品で、今回の旅で最もいい宿でした。クラニユはスロベニア第3の街といいますが、旧市街はそのまま静かで、落ち着いた街並。朝の散歩が楽しめます。



ブレッド湖

クラニユからバスで40分。湖の東岸が賑わっており、やっぱり凄い人で、リゾートのニオイ。ここでは私の居場所はないと直感。宿は西岸にあるアパート。その大きなベランダからの眺めは素晴らしく、これだけですっかり満足しました。



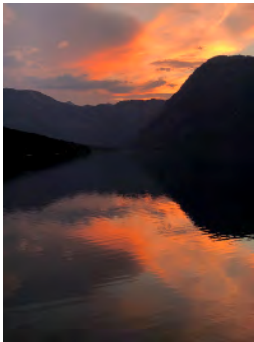
シュコーフィア・ロカ

クラニユからバスで20分。14世紀に建造された、現存するのでは欧州最古の橋といわれるカプチン橋は大したことはありませんが、よい旧市街が残っていて贅沢に楽しめます。写真はバス停から少し下がったところから旧市街を見上げたものです。



ポーヒン湖

ブレッド湖から鉄道で20分。ここも家族連れが水遊びを楽しむリゾート。ブレッド湖よりはずっと静かで、ボートに1時間乗って（風景を楽しむために速度がものすごくノロい）逆岸にいき、そこからケーブルでスキー場まで上ると湖が俯瞰できます。帰りは4キロを歩きながら森林浴。夜は名物の黄金の鱒のグリルを食べて、湖畔をブラブラしている内にすごい夕焼けが・・・。



アパートと表現しますが古い家をリノベした民泊。Bookingで予約。1泊素泊まり100€。前払い。GoogleMapで探してもみつかりません。右写真の改造中の建物で看板無し…みつかるわけがありません。オーナーがチェックイン時間にやってきます。ベランダが大きくて眺めは最高（上写真）。自転車無料、ビール・水無料、キッチン付き。でも近所にコンビニなし。しかたなく朝は非常食のカップラーメンを食べました。Apartment Mulej



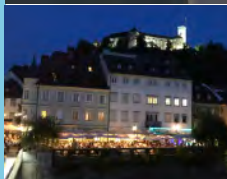
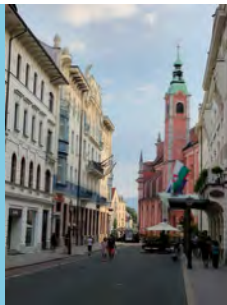
ピラン

朝七時のバスでノヴァ・ゴリツァを出て2時間半。一転してアドリア海の港街ピランに到着。ここは面白い。小さな海辺のリゾートとはいえ中身があります。古風な役所の建築が素敵な広場を起点に魅力的な路地を彷徨い上れば、海と町を見下ろす教会があつて、そこからの眺めは圧巻（表紙の写真）。海辺は海水浴に興じる家族や若者たちのイチャイチャが強い陽によく映え、楽しそうなレストランが並びます。海あり、路地あり、街全体を俯瞰できるスポットあり、建築が豪華な広場があつて夜はサマーフェスティバル。すべてが凝縮して純度が高く、1泊2日なら…これほど面白い港街が他にあったかなあ…と思いつけないくらい。



リュブリャナ

首都を最後の日にしたのは期待していなかったからですが、予想を覆す面白さ。欧州最小の首都といわれますが、旧市街の凝縮度は見事なものでした。お城があって、一汗かいて登ってみれば街全体を俯瞰することができます。その山裾に川がくねり、川に沿ってレストランが軒を連ね、一本裏は商店街。大都市ならオフィスが幅を利かせて、観光客はピンポイントで目玉を渡り歩くことになり、目玉が強烈でないと魅力がつかれません。リュブリャナにはアール・ヌーヴォー建築があつて嬉しくなりますが、現代建築はありません。ザハもゲーリーもヘルツォークも・・・なければならぬ落ちて美しく、そんなものは凝縮した面白さの中では要らなかったんだと思わせてくれました。もちろんアール・ヌーヴォーだって当時は異端児の現代建築でしたが、その美しさは時代を経ても変わるはずがなく、一方で奇抜さを競う現代建築は、斬新さを競うものである以上、すぐに色褪せてしまいそうです。



ノヴァ・ゴリツァ

立派な駅舎の目の前に立ちはだかるイタリアとの国境がこの街の観光。駅舎にはミュージアムもあって、小さいけど当時の緊張した雰囲気は感じられます。驚いたことに「国境」の他にはカジノしかありません。私の宿もカジノホテル。道はとても広く街路樹がきれいで、近代的なオフィスもあり、その先には公園に面して集合住宅が並びます。要するにニュータウン。観光に来る処ではないけれど、ニュータウンに興味があったり、カジノ好きなら価値あり。私はホテルのサウナで体を休めました。



Perla Casino & Hotel
日本人客は居ませんが中国、韓国人が多数。サウナ10€は◎

